

新型コロナウイルスの猛威で一層業況悪化

2月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

全業種で新型コロナウイルスについて言及している。すでに被害が発生している業種が多く、非製造業への影響が大きい。なかでも、小売業への被害が甚大となっている。また、未だ被害はないものの、今後の影響を懸念している業種もある。総じて、先行きに明るさはみられず、さらに業況が悪化するとの見方が強い。

製造業	食料品		パンは、暖冬と連休により売れ行き好調となったが、下旬から想像を超える売上減少が始まる。製麺は、小売・業務用とも荷動きが鈍い。菓子は、月初の動きが鈍かったものの、連休で持ち直し前年並み。酒造は、これまで好調であった純米酒が落ち込んでいる状況。食肉は、豚肉の需要が安定しており業況は堅調に推移。
	繊維・同製品		桐生織物は、展示会等の延期・中止が相次ぎ業況が悪化している。一方、繊維製品は、中国での生産の一部を国内にシフトしたため若干の繁忙感あり。ニットは、春物の注文は前年並みだが、その後のオーダーがストップしている。伊勢崎織物は、和装需要の低迷が続くが、積極的な商品開発をしている広巾に期待感あり。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、経済活動の停滞を懸念している。生コンは、前年ベースの出荷量を確保。砂利は、安定した需要があり出荷量増加、プラントに在庫がない状況。碎石は、災害関連工事が本格的に始まった吾妻地域において売上増となるが、地域間にバラツキがあり、全体として前年並みの推移。
	機械・金属		鍍金は、中国からの部品供給が止まり大幅な受注減となっているところが見受けられる。自動車関連は、中国・ベトナム等への輸出が減少し、今後への不安が募る。自動車部品は、学校閉鎖に伴い従業員の休暇が増加し、人員配置に苦慮している。電機関連は、前月同様不調が続ぎ、今後も同じ状況が続く見通し。
	その他の製造業		印刷は、物資の不足・滞りが発生しており、今後への影響を懸念している。木材は、原木価格は落ち着きつつあるが、荷動きが悪化の一途をたどる。紙加工品は、景気減速により盛況感が感じられず、大量の在庫が問題となっている。ゴム製品は、企業間にバラツキがあるものの全体的な業況は悪化している。
非製造業	卸売業		卸団地は、衛生関連用品の需要が急増している一方、学校給食停止や外食需要減少により食品関連が低迷、また、貸室業務においてキャンセルが続出している。農産物卸は、観光客減少に伴い観光地での需要が減少し、販売価格が低下している。水産物卸は、注文の予約キャンセルが相次ぎ売上が減少している。
	小売業		家電小売は、中国で部品を生産している製品が納入されず、売上・収益ともに悪化。燃料小売は、原油・販売価格ともに下落している。生花小売・中古車オークションは、消費マインドの冷え込みで拍車がかかっている。商店街は、中旬以降に業況が大幅悪化、消費税増税、暖冬、コロナの三重苦の状況。
	サービス業		温泉旅館は、インバウンドや国内の団体客が減少しているほか、来月以降のキャンセルが目を追うごとに増加し、業況悪化が必至の状況。富岡地域における不動産取引は、取引件数・販売価格が悪化傾向にあり、ここ数年で不動産業者が激減している。建築設計・自動車整備は、売上・収益ともに前年並み。
	建設業		電気工事は、資材の供給が滞ることを不安視しているほか、マスク不足への対応に苦慮している。鉄構は仕事量減少・受注単価の下落を懸念。建設工事は、災害復旧工事の発注が増加しているが、公共工事の減少により地域ごとの事業量格差が拡大している。塗装工事は、年度内工期の仕事があり、一時的な繁忙感がある。
	運輸業		海外情勢が落ち着きを取り戻し燃料価格が値下がりしたが、経済活動が停滞している影響で全体的な荷動きが悪化しており、今後についてもコロナの影響を注視している様子がうかがえる。小口配送は、引越し、スポット配送の需要は前年並み、医薬品PETと季節物のひな人形の配送量が増加。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

●鉱工業生産指数(季節調整値) 101.9(前月比▲13.6%)「県統計課・1月」

●求人倍率(季節調整値) 新規1.76倍:有効1.52倍「群馬労働局・1月」

●大型小売店販売額 209億円(前年同月比+1.0%)「経済産業省・1月」

●消費者物価指数(全国) 102.2(前年同月比+0.7%)「総務省統計局・1月」

(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)